

令和4～令和7年度

文部科学省研究開発学校指定

研究報告書

－ 4年次（最終年次） －

（研究紀要 第70集）

知的障害特別支援学校における
生活科・理科・社会科のカリキュラムモデルの創造

－ 横断的で連続性のある学びを目指して －

2026年2月

筑波大学附属大塚特別支援学校

知的障害特別支援学校における生活科・理科・社会科のカリキュラムモデルの創造

—横断的で連続性のある学びを目指して—

本校の研究報告書(研究紀要)が出来上がりましたのでお届けします。

1908年(明治41年)以降の東京教育大学附属小学校(第五部)や、その後の附属中学校(特殊学級)で取り組んできた特殊教育の先進的な実践を基に、本校が開校したのは今から65年前の1960年(昭和35年)です。そして、開校以降、本校が最も大事にしてきたものの一つは、知的障害のある子どもに、いつ、何を、どのように教えていくかの探求です。その具体的な取り組みの流れは、1975年(昭和60年)にそれまでの実践を整理した「経験内容表」等を作成し、近年ではそこから「個別教育計画」、「学習内容表」、大塚モデル「指導計画集」の3つのツールからなるパッケージとして結実しました。そして令和元年度までの3年間は、「みんなでつなぐ「個別教育計画」という研究テーマを掲げ、「個別教育計画の縦断的研究」と「授業評価に基づいた個別教育計画」の改善に取り組んできました。令和2～3年度は、「知的障害児教育が今まで大切にしてきたこととは:個に応じた教育課程の編成」とし知的障害教科のうち、国語、算数・数学の単元配列表、単元計画の作成と検証、3観点による評価方法及び評価場面の検討に取り組んできました。

そして、令和4年度からは、文部科学省・研究開発学校制度の指定を受け、「知的障害特別支援学校における生活科・理科・社会科のカリキュラムモデルの創造—横断的で連続性のある学びを目指して—」をテーマに4年間の実践研究に取り組んでいます。これまで、(1)小学校・生活科、小中学校・社会科の内容を踏まえた教育実践、(2)指導と評価の一体化に向けた指導計画・評価計画の実践的検討、(3)生活科と社会科の連続性に関する教育実践と教育課程の検討、(4)生活科と理科の連続性に関する教育実践と教育課程の検討に取り組みました。そして、4年目となる今年度は教育実践と教育課程の検討を踏まえて、生活科・理科・社会科のカリキュラムモデルとしてまとめました。

本研究報告書(研究紀要)は、本校としても挑戦的な取り組みであった、知的障害特別支援学校における生活科・理科・社会に関するカリキュラム開発に関わり、過去4年間の成果をまとめたものになります。これからさらに進展が期待される知的障害特別支援学校における教科教育に関わり、本研究報告書(研究紀要)がお役に立てれば幸いです。

最後に、本実践研究を進めるにあたり、これまでに多くの先生方からご指導・ご助言を賜りましたことに、深くお礼申し上げます。

2026年2月

筑波大学附属大塚特別支援学校
学校長 小島 道生

目次

巻頭言

第1章 学校研究概要

1. 研究開発の概要	1
(1) 研究開発課題	1
(2) 研究の概要	1
2. 研究開発の経緯	6
(1) 研究前年度まで「カリキュラム・マネジメント」	7
(2) 研究1年次目(2022年度)「教科別指導の進め方」	10
(3) 研究2年次目(2023年度)「カリキュラム開発の原理・原則」	17
(4) 研究3年次目(2024年度)「カリキュラム評価の開発」	21
(5) 研究4年次目(2025年度)「カリキュラムの評価・改善」	31
3. 研究開発の内容	36
(1) 研究仮説	36
(2) 教育課程の特例	38
(3) 知的障害特別支援学校における教育課程及び本研究のカリキュラム開発	38
(4) 本研究のカリキュラムモデル	40
I. 生活科	40
II. 理科	46
III. 社会科	51
IV. 段階の考え方	55
4. 研究開発の結果及びその分析	58
(1) 評価方法	58
(2) 結果及び分析	61
① 授業評価	61
a. 小学部	62
b. 中学部	63
c. 高等部	64
② カリキュラム評価	65
a. 小学部	67
b. 中学部	68
c. 高等部	69
d. カリキュラム評価の比較	70
③ 全体	
a. 授業評価とカリキュラム評価	71
b. 児童・生徒への効果	71
c. 保護者への効果	72
5. 考察	73

6. おわりに 75

〈引用・参考文献〉..... 77

第2章 授業実践

1. 小学部・生活科

2025年度2学期 「伝えよう!合宿の思い出(大塚祭にむけて)」

2. 中学部・理科

2025年度2学期 「ものの温度と体積(空気、水)」

3. 高等部・社会科

2025年度2学期 「人々の健康や生活環境を支える事業～水のゆくえ～」

巻末言

研究同人

巻末言

文部科学省研究開発学校指定事業の最終年度(4年次)にあたる本年度の研究成果を取りまとめ、令和8年2月13日に開催する研究発表会にあわせて、本報告書(研究紀要)をお届けする運びとなりました。本研究の推進にあたり、歴代の運営指導委員ならびに研究講師の先生方には、授業研究会等を通して多くのご示唆とご指導を賜りました。心より感謝申し上げます。

本校では、知的障害特別支援学校における教科別指導において、横断的で連続性のある学びの実現を目指したカリキュラム開発に取り組んでまいりました。とりわけ研究開発学校の期間であるこの4年間は、小学部生活科、中学部・高等部の理科・社会科を対象として、現行学習指導要領の理念を踏まえるとともに、次期学習指導要領の検討にも寄与することを意識し、実践と検討を重ねてきた研究であったと考えております。

研究の過程では、本研究で考案した生活科・理科・社会科の学習指導要領草案を基に、各学部・各教科の教職員が授業や単元の計画を立て、試行と振り返りを繰り返してきました。こうした取組は、教職員一人一人にとって容易なものではありませんでしたが、授業研究会や日々の実践を通して得られた知見や気づきを学校全体で共有しながら研究を進めてきた教職員の努力に、改めて敬意を表したいと思っております。

最終年度となる本年度は、学習活動の評価と改善を循環させながら、生活科・理科・社会科におけるカリキュラムモデルとして整理しました。検討を要する点は残されておりますが、実践に根ざした一つの事例として整理し得たことは、本校にとって今後につながる大きな財産であると考えております。

本研究は本年度をもって一区切りとなりますが、本報告書(研究紀要)にまとめた成果や課題が、各学校における教育課程の改善や実践研究の一助となることを願い、結びといたします。今後とも、本校の研究・教育活動に対し、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026年2月

筑波大学附属大塚特別支援学校
副校長 佐藤 知洋

【Microsoft Teams を活用したカリキュラム・マネジメント(学校間連携版)のご案内】

*登録は以下のフォーム URL、QR コードからお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/4cLzED7PUg>



研究同人

校長 小島 道生		副校長 佐藤 知洋		主幹教諭 佐藤 義竹(◎)	
学部	学部主事	学級	担任		
幼稚園部	森澤 亮介	ひまわり組・さくら組	森澤 亮介(主事兼任)・廣瀬 保奈美(○)		
小学部	田上 幸太	はな組	小笠原 志乃・松木 直也・大内 祥菜		
		つき組	當眞 正太・門野 あすか・佐々木 小百合		
		そら組	田中 翔大(○)・村木 友香・吉川 綾華		
		副担任	岩附 成子		
中学部	菅野 佳江	1年	飯島 徹・末吉 玲子		
		2年	古江 陽子・堀江 俊丞(○)		
		3年	宮林 一菜・鯛 海音		
高等部	杉田 葉子	1年	宇佐美 太郎・長谷川 浩子		
		2年	石飛 了一・原田 薫		
		3年	河島 哲・田中 麻衣(○)		
		副担任	根岸 由香		
教務主任	高津 梓		山田 毅	數面 響子	
進路指導主事	山口 裕紀子		松下 ちひろ	中村 友彦	
えがおカフェ	大宮 弘恵		小林 和佳		
養護教諭	土田 裕美		江藤 陽歌		
栄養教諭	宮城 麻優美		水田 朱音		
			非常勤講師		

(◎研究主任 ○研究部) ※2026年1月現在